

I 世界史B問題

匈奴は前3世紀に勢力を拡大し、戦国時代の趙などの諸国はこれに対抗して長城を築いた。中国を統一した秦の始皇帝は、長城を修築する一方で匈奴に遠征軍を派遣した。匈奴は冒頓単于の時代に月氏を駆逐し、前漢の高祖を破って和親策をとらせるなど最盛期を迎えた。しかし、積極策に転じた武帝の攻撃を受けて衰退し、前1世紀に東西に分裂した。西匈奴の滅亡後、東匈奴は後1世紀に南北に分裂し、北匈奴が西方に移動する一方で、南匈奴は後漢に服属して華北に移住した。3世紀に西晋で八王の乱が起こると、匈奴は諸王の軍事力として活躍し、4世紀初頭に自立して五胡十六国時代が始まった。この混乱の中で匈奴は永嘉の乱を起こして西晋を滅ぼした。

(300字)

Ⅱ 世界史B問題

A

a	班固
b	総理各国事務衙門（総理衙門）
c	義和団

(1)	文字の獄や禁書を行ったため。	
(2)	王羲之	
(3)	『資治通鑑』	
(4)	禅宗	
(5)	パリ講和会議で、中国代表が要求した、日本の二十一カ条撤廃が認められなかったことに対して、五・四運動が起こった。	
(6)	グプタ朝	
(7)	郭守敬	
(8)	ネルチンスク条約	
(9)	広州	
(10)	イエズス会宣教師が中国の文物や情報を伝えたため。	
(11)	三藩の乱	

B

d	カルケドン
e	ウマル
f	アイユーブ
g	バイバルス
h	ティマール

(12)	(ア) エフェソス	(イ) ササン朝
(13)	アルメニア共和国	
(14)	ミスル	
(15)	サーマーン朝	
(16)	十二イマーム派	
(17)	モンケ=ハン	
(18)	サヌーシー教団	
(19)	(ア) ワッハーブ王国	(イ) アブデュルメジト1世

Ⅲ 世界史B問題

ソ連では共産党独裁下で経済が行き詰まり、1985年に登場したゴルバチョフがペレストロイカによる市場経済の導入と政治体制の改革を始めた。東欧諸国では以前からポーランドの「連帯」による運動など、社会主義に対する反発が高まっており、ソ連の改革に後押しされ民主化運動が高揚した。その結果、東欧諸国では1989年に相次いで一党独裁が崩壊し、市場経済と議会制民主主義に移行した。中国では鄧小平による改革・開放路線が進められ、社会主義市場経済が行われてきたが、1989年の天安門事件で民主化を求める運動を弾圧し、共産党独裁が続いた。ベトナムもソ連・中国の改革の影響でドイモイにより市場経済が導入されたが、一党独裁は維持された。

(300字)

IV 世界史B問題

A

a	ケルト
b	フン
c	フランク

(1)	線文字B
(2)	イオニア人
(3)	エトルリア人
(4)	民会
(5)	テオドシウス帝
(6)	テオドリック大王
(7)	アタナシウス派に改宗した。
(8)	全国を州に分け、地方の有力者を伯に任命して統治させ、巡察使を派遣して伯を監督した。
(9)	アヴァール人
(10)	ビザンツ帝国（東ローマ帝国）

B

d	ケーニヒスベルク
e	オスマン帝国
f	クリム=ハン国
g	ダンツィヒ
h	フィンランド

(11)	十字軍期における、巡礼者の保護。	
(12)	旧教国フランスと新教国スウェーデンの同盟は、三十年戦争の性格が、宗教戦争から主権国家間の戦争へと変化を表しているから。	
(13)	カント	
(14)	(ア) 七年戦争	
	(イ) グロティウス	
(15)	ロシア皇帝エカチェリーナ2世が、アメリカ独立戦争においてイギリスを孤立化させる目的で提唱した。	
(16)	(ア) アメリカ合衆国	
	(イ) ウィーン会議	